

東海医学会講演会のご案内

演題： 転移因子が駆動する哺乳動物の個体発生

演者： 坂下 陽彦 先生

慶應義塾大学医学部 分子生物学教室・助教

司会： 松前 ひろみ (分子生命科学)

☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆

全能性とは、あるひとつの細胞がいかなる細胞種にも分化・個体形成できる能力を指し、我々ヒトを含む哺乳動物においては、終末分化した卵子と精子の受精によって誕生する「受精卵」のみが唯一全能性を発揮できる。興味深いことに、全能性期にある受精卵では、生物進化の過程で宿主ゲノムに感染し組み込まれた内在性レトロウイルス (Endogenous Retrovirus: ERV) の発現がゲノム広範囲に一過的に惹起される。近年、講演者らはこの全能性期特異的な ERV の発現が、宿主の細胞分化ならびに遺伝子発現制御に必須であることを見出した。本講演では、これら最新の研究結果を共有し、発展研究への議論を深めたい。

2023年1月30日 (月)

14:00～14:45

1号館5階 5FC教室